



中体連代替大会があります

阿蘇郡市のいくつかの部活動の種目では代替大会が開催されています。新型コロナウイルス対策をしっかりとったうえでの実施です。本校は7月18日(土)にバドミントン大会会場となりました。保護者のみなさんもマスクを付け、間隔を取って応援されていました。

久しぶりの他中学校との試合でいつもと違って動きがぎこちないところもありましたが、時間が経つにつれ、本来の力を発揮した選手が多くかったです。

他の部活動も他会場で代替大会が行われています。保護者をはじめとする応援団も大声での応援はできませんが、精一杯の拍手や選手の疲れをとるための水分・栄養補給の準備をされました。会場入口では役員が交代で入場者の体温検査をされていました。たくさんの人々の裏方としての働きのおかげで大会が実施できていることを例年以上に感じました。ありがとうございます。

(本校：バドミントン会場)



(阿蘇市体育館：バスケット会場)



(小国ドーム：バレーボール会場)



今回の試合で気持ちよく区切りを迎えた3年生と悔しい思い出が残った3年生がいると思います。裏面に福岡県中学3年生の青少年の主張作文を載せてあります。まだ、これから代替大会がある種目もありますが、記憶に残る大会にしてください。

熊本県に、日本に、南阿蘇から自分の考えを発信してみませんか？

新聞報道等より、全国的に「令和2年7月豪雨」の被害が分かってきています。特に熊本県は被害が甚大です。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアの受け入れも県内の人々に限られ、なかなか復旧が進んでいません。私も7月12日に人吉にボランティアに行ってきました。凄まじい現状に、人吉の方々は心が折れそうになるのを必死にこらえて生活の再建を目指していました。

この日は朝9:00～15:00まで20人のメンバーと1件の家に入り、畳や床を取り除き、中にある泥や泥水の排出をしました。バケツリレーで2000杯ほど行いました。20人で6時間かけて、まだ1家屋の半分もできませんでした。これからも継続的に行きたいと思っています。

ボランティアは、できる人が、できる形(作業、募金、手紙・はがきでの応援メッセージ)で、できる時間に自分からやろうと思う活動だと思っています。この日は全国の報道機関が取材にやってきました。「熊本の現状を知らせることもボランティアだ」と親しいボランティア仲間が取材に応じていました。

現地の方々の心が折れそうになるのを支えているのが、小学生、中学生、高校生のボランティア活動です。手紙等でのメッセージは大きな力となっています。南阿蘇から芦北や人吉まで行って作業のボランティアはできませんが、生徒会執行部が励ましにつながるボランティアを考えています。ぜひ協力いただけたらと思います。

ボランティアをすると自分も元気になります、自分の生活が変わります。



(ボランティア受付の様子)

「ぼくが野球で得たこと」

青少年の主張最優秀賞 福岡県中学3年生

僕は小学2年生のころから野球をしています。しかし、6年生になってもレギュラーになれませんでした。自分より年下の子がレギュラーで試合に出ていて、年上の僕はいつもベンチにいました。同じ年の子に馬鹿にされるのはもちろん、年下の子にも馬鹿にされました。正直、何度も辞めたいと思いました。しかし、「いつか自分を馬鹿にしてきた人たちを見返してやる」と自分に誓い、毎日練習をしました。そして2月、もうすぐ僕たちは引退だからと監督は試合で代打で起用してくれました。そして、その打席でホームランを打ちました。両翼70メートル程しかない川原のグラウンドですが、

僕にとっては大ホームランでした。なぜなら、今まで全く試合に出られなかつたのに、毎日の素振りという努力が実ったからです。両翼70メートルの小さなホームランではありましたが、毎日「自分を馬鹿にしてきた人たちを見返してやる」と素振りをした僕にとってはすごく心に残る出来事でした。

「努力はいつか必ず実る」と本当に思いました。

そして僕は中学でも野球部に入りました。中学2年生の夏、新チームになり、僕はレギュラーになれました。さらに副キャプテンも任せられました。最初のシーズンは打率・打点は共にチームで二番目に良く、盗塁は一番でした。チームに貢献できていたと満足していました。しかし、新シーズンになると全く活躍できなくなりました。むしろチームに迷惑をかけていました。そんなとき、チームメイトは僕を責めませんでした。それどころか、アドバイスをくれたり、僕を笑わせて元気づけてくれたりしました。そんなチームメイトのお陰で何度も救われました。本当に良い仲間を持ったとうれしくてたまらなかったです。そんなチームメイトのためにもと一生懸命練習しました。コーチにも頼んで週3日、コーチの家で部活動の後、夜遅くまで練習しました。少しの間調子が良くて、良い当たりを打ったりしていました。しかし、相変わらずチームに迷惑をかけていました。何度僕のために負けたことでしょう。何度先生にしかられたことでしょう。悔しくて仕方ありませんでした。僕はあまりにチームに迷惑をかけ、先生にしかられたせいか野球を辞めたいと真剣に思いました。しかしそんなとき、コーチや家族、仲間が励ましてくれました。「今は調子が悪いだけさ。もう少ししたら絶好調になるよ」と。そして小学生のときホームランを打ったように「努力は必ず実る」と信じ練習に励みました。

そして最後の大会、僕たちは筑豊大会で引退しました。引退までの4試合、僕はノーヒットで終わりました。試合後は涙が止まりませんでした。コーチが週3日も練習してくれたのに、どんなときも家族が励ましてくれたのに、最後までチームや仲間に何もできなくて泣きました。何日か経ち、今までを振り返りました。そして思いました。「努力はいつか必ず実る」と言いますが、今回は実りませんでした。しかし、努力とは実るか実らないかではなく、「どう努力したか、どれだけの気持ちで努力したか」が重要だと考え直しました。僕はノーヒットで中学野球が終わりました。しかし、後悔なんてしていません。なぜなら「あの時にああして練習していれば…」なんて思わないくらい練習したからです。それは、いつも支えてくれたコーチや仲間、家族のためにと一生懸命練習したからです。僕は、いつまでも悔やんで生きるつもりはありません。高校でも野球を続けようと思っています。もしかしたら、高校でもまたミスばかりするかもしれません。レギュラーになれないかもしれません。人生においても、成功ばかりでなく失敗も多くあることでしょう。しかし、僕は中学野球で得たこ

とを、つまり「努力は実るか実らないかではなく、どう努力したか、どれだけの気持ちで努力したかが重要だ」ということを胸に生きていくこうと思います。

主張を終えて…自分の言葉で来てくれた人たちに何か伝えられたらと思い発表しました。最優秀賞はとてもうれしかったです。